

この世は謎だらけ

第7期生 上田 修平

小野ゼミの2年間を書くという事で2年を振り返ってみると、なんとも不思議な事が思い出される。まず、なぜ日吉の廃人と化していた自分が小野ゼミというエグイ場所を選んだのであろう？ 日吉時代、90分間授業を聞いた事のない自分が何時間もグル学に閉じこもって議論出来たのであろう？ 日吉の自分を知っている人からすれば、まさに奇想天外な事が起こっていたと感じるに違いない。なぜ記憶がなくなるまでお酒を飲めるのであろう？ お酒はもともと好きだったが、ここまで酒乱になったのはここ2年間だ。なぜ36時間も寝る事の出来ないスケジューリングをしてしまうのであろう？ 36時間寝てないなう。

正直上記の答えは、全く答えの思いつかない謎である。自分でも分からない。そもそもなぜこの文章を書いているのかもわからない。これから何十年か生きて、様々な事を経験し、死ぬ間際にその答えを知る事が出来たらそれでいいと思う。今はただ、小野ゼミでの2年間で様々な人に頂いたエネルギーがそうさせているに違いないと考えるしかない。

この文章を書いていると何かに気がついた。何かとは、俺の生活は、ゼミ、酒、ゼミ、バイト、ゼミ、バイト、酒、ゼミ、睡眠くらいの割合で構成されていて、本当にエネルギーが持て余っているなど感じていた。でもそれは違っていたのだ。起きた時に浴びる太陽のエネルギー、駅から学校へ歩く道で足から感じる大地のエネルギー、コンビニに寄って店員からもらえる微笑み、そして、ゼミ生活でお世話になった、先輩、後輩、同期、小野先生のエネルギーをすべて吸収していたのだ。つるのや・山ちゃん・バンガロー等でのラリー並の暴走を温かく見守ってくれた先輩。どんなにうるさくても微笑んで流してくれた後輩。さまざまな困難（KUBIC、マケ論）で苦しんでいる俺をどんなにだるくてもフォローしてくれた同期。恐らく自分の数ある愚行は同期の個々人のエネルギーが大きすぎてそれをアホみたいに吸収しすぎたため、核爆発の如く、多大な被害をもたらしたであろう。

そして、本当に馬鹿者の自分を本当に親密に指導して頂いた小野晃典先生。朝の5時でも6時でも指導して頂ける先生は日本各地を探し歩いても早々見つかるものではないと思います。先生の下で勉強出来た事が慶應に入ってから一番の収穫です。

このように自分は皆に支えられてこの卒業という栄冠を得る事が出来るのである。(書いている時点では卒業はまだ分からない。) また、これからも自分の様々な武勇伝を作っていくと思うので静かに見守っててください。



酒のエネルギーで1つの謎が解決した著者(写真中央)